

適用変更情報

農林水産省登録
第15024号

除草剤
カッター粒剤
DBN・DCMU 粒剤

平成24年6月27日付けで以下の作物の使用基準が変更になりました。

<変更内容>

- 作物名「みかん」削除する。
- 適用雑草名「畑地一年生雑草」を「一年生雑草」とする。

【削除】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	DBNを含む農薬の総使用回数	DCMUを含む農薬の総使用回数
みかん	—	畑地一年生雑草 ヨモギ、 ギシギシ等の 多年生広葉雑草 スギナ	春期雑草発生前 ～発生初期	砂土を 除く 全土壌	9～12 kg/10a	1回	全面 土壌 散布	1回	1回

<使用上の注意の削除>

- みかんに対しては開花期前後の使用は結実不良などを生ずるおそれがあるのでさけること。

【変更後】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用回数	使用方法	DBN を含む 農薬の総 使用回数	DCMU を含む 農薬の総 使用回数
桑	—	一年生雑草 ヨモギ、 ギシギシ等の 多年生広葉雑草 スギナ	春期又は 夏切り後の 桑の発芽前 あるいは秋冬期 (雑草発生前 ～発生初期)	砂土を 除く 全土壌	6～8 kg/10a	1回	全面土壌 散布	1回	1回
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道 等	一年生雑草 多年生広葉雑草 スギナ	雑草発生前 ～発生始期	—	10～ 20kg/10a	3回以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に全面 土壌散布	3回以内	3回以内

使用上の注意事項などについては、製品ラベルを参照のこと。

【変更後】

- 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期までに使用すること。
- 本剤はイネ科雑草に対しては効果が劣るので、イネ科雑草が優占する場所での使用はさけること。
- 土壌が乾燥していると効果が不十分となるので雨上り等の土が湿った状態で使用することが望ましい。
- 散布に当っては散布むらが生じないように全面に均一に散布すること。薬剤処理後、中耕すると薬害を生じるので土壌混和は行なわないこと。
- 本剤は年1回の使用とし、連年使用は行なわないこと。
- 本剤は処理後、地表面から薬剤が気化し気象条件などにより滞留した場合、下枝の葉や果実に薬害を生ずるおそれがあるので風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさけること。
- 次のような場所では薬害のおそれがあるので使用をさけること。
 - ① 極端な砂質土壌。
 - ② そ菜（かぼちゃ、うり類など）、花き（菊など）、ホップなどの栽培園に隣接している場所及びその栽培予定地。
 - ③ 新植後3年未満又は間作予定の果樹園、桑園。
 - ④ ハウス、温室などの施設内及びその周辺並びにそれらの設置予定地。
 - ⑤ 移植後間もない樹木の周辺。
- 桑に使用する場合、葉にかかると薬害を生ずるので、給桑葉にはかからないように注意すること。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - ① 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
 - ② 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
 - ③ 水源池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意すること。
- 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。